

平成26年3月
(文責 土屋)

先月の大雪では、通学路確保のための雪かき(含むボランティア)をはじめ、安全な登下校への応援及び、様々な社会教育行事の急な中止対応など、心温かな御協力ありがとうございました。大雪から一ヶ月余り経った今も、農業被害への対応など、後遺症は残っておりますが、学校教育・社会教育の活動は、お陰様で順調にまとめと次への展望の動きをすすめております。

現在開催中の市議会に上程してある平成26年度の教育委員会関係予算は、およそ83億円(市全体予算の17.6%)です。貴重なお金ですので、議会の審議内容を踏まえ、有効に活用して、人が育つ、夢がふくらむ教育行政をすすめて参りたいと思います。

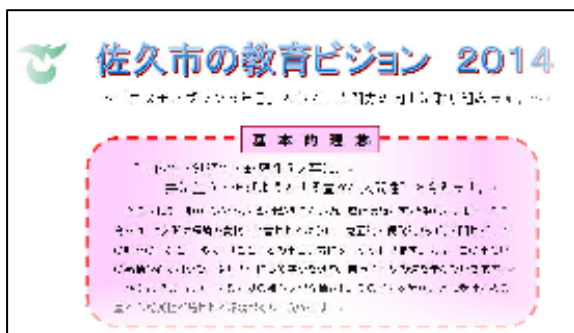


＜地域の人達に見守られ登校する児童＞

教育委員会の動き

1 大きな方向性を見定めを！

「読むこと」「書くこと」「行うこと」をすすめるコスモスプラン実践5年目として、一層人間力の向上を願い、「佐久市の教育ビジョン2014年」を検討審議しています。また、“夢や希望をもって輝き、ともに生きる子ども”を目指して、教育委員会事務局や学校が取り組む内容を盛り込んだ「佐久市学校教育の目指す方向2014」も作成し、新年度の校長会・教頭会で伝達できるよう準備しています。



＜「佐久市教育ビジョン2014」より＞

こうした大きな方向性や実践内容の共有こそが、歩みを確かにする第一歩と考え大事にしています。方向性の主要部分は、今後、市教育委員会HPに掲載して参ります。

2 課外・部活動の在り方を巡って……

2月中旬に「県中学生期のスポーツ活動指針」が発表されました。市教委では、中学校の運動部だけでなく、文化部、そして小学校の課外活動も同様の視点で考えることとしております。現在の段階で、各学校が運営上、改善すべきことはすすめることとしながらも、佐久市としての指針は、学校現場(教職員、子ども、保護者)の声をお聞きし、現状を把握するなかで、方針を作成し、徹底すべきことは、全学校が歩調を合わせて改善していくという方向を話し合い、学校にも伝えました。

子どもの可能性・個性の伸長の観点をはじめ、学習や健康への配慮、経済的・時間的負担など、多様な視点から検討することが大切だと思っています。お考えがありましたら御意見をお寄せください。

3 子どものサインを見落とさない！

いじめ・非行的行為・悩み・不安など、子どもたちは明るさのある生活をしながらも、苦しさや悲しみ、戸惑い、あるいは社会や大人への不満なども抱えて生きています。大きなできごとになる前の早期発見策の第一は、「子どもが発する小さなサインを見落とさない」ことと考えます。子どもたちの顔色や言葉遣い、もちものや帰宅時刻など、いつもと少し変だと思うことに敏感になる大人たちの温かな心づかいのある環境づくりが大切と考えています。保護者・教師、地域の方々などが、そうした変化に気づき、対応できるようになるための具体案も4月には発信できるようにしたいと考えています。